

令和4年度 江戸川区立小岩第一中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	自主性に富んだ生徒を育てる 責任を持って行動する生徒を育てる 健康で情操豊かな生徒を育てる	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	みんなが幸せになれる学校 次代の社会の担い手となる生きる力を身に付けた生徒 学校経営参画意識をもって職務を遂行し、教育目標の達成に努める教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果> 新型コロナウイルス感染症拡大が収束せず、小中連携教育などの交流が難しい状態であったが、教育課程を見直しや新しい生活習慣を定着させることで、授業数の確保のみならず、自己肯定感を育てる行事等においても例年の形を変えながらも教育活動を継続することができた。</p> <p><課題> 感染症拡大の収束が見られない状況で、学校公開など地域や保護者の参観ができなかった。昨年度同様に教育活動を継続していくが、感染症防止策を講じながら学校公開の機会を増やし、保護者や地域への理解をさらに深めていきたい。また地域と保護者の教育力を活用し、開かれた教育課程の実践を目指していく。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や放課後補習教室の充実、家庭学習(eライブラリー・アドバンス活用)の定着 ICT機器の活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室の実施 家庭学習の推進に向け「江戸川っ子study week」を取り組む iPadを活用した授業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習150回程度実施 「study week」学期に1週間設定 国学力調査では平均正答率を全国と同程度にする 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間の放課後補習150回以上を実施できた 国学力調査の平均正答率を全国と同程度達成 	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図るため、放課後の補習教室や補習活動に力を入れていることがわかる。今後も期待したい 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も引き続き「study week」を利用しながら、「eラーニング」の活用を推進し家庭学習の充実を図り、誰一人取り残さない補習スタイルを確立していく
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書を通じた探究的な学習の実施・充実 学校図書館の整備と充実 	<ul style="list-style-type: none"> 読書科の年間授業数の確実な実施 行事や他教科の授業と連携し、発達段階に適切な探究的な学習を実施 公共図書館との連携を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の他に、読書科として各学年年間35時間実施 探究的な学習を通して成果物を作成 小岩図書館司書による月1回支援指導 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ごとにピリオオバトルを実施、読書の楽しさ以外にも、他者に伝える力を養った 学校行事などの学習に探究活動を取り入れ、成果物の展示ができた 	A	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間に加え、学芸発表会ではピリオオバトルを参観し学校の取組がわかった。引き続き実施を楽しみにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎による図書室規模の縮小は仕方がないが、図書館司書と連携し、書架の整理と効率化を図っていく
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 校舎改築開始年度であり校庭が使用できないが、河川敷などを借りて体育の授業を確保 	<ul style="list-style-type: none"> 都体力調査の分析から、必要な補助運動を改善し体育の授業で実施 河川敷や近隣の小学校の協力を得ながら、体育授業や部活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 都体力調査の項目「投げる力」を都の水準に押し上げる 小中や地域など協働したレクリエーション環境の整備 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度途中で校庭代替地となったが、体力向上の取組を止めることなく、計画的に実施できた 投げる力について、フォームなど徹底する時間を増やした 	A	<ul style="list-style-type: none"> 都体力調査「ハンドボール投げ」が都より数ポイント高い 小学校の校庭など利用で、運動系部活動は中止することなく継続できている 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も河川敷や近隣の小学校との連携を図り、体育主任中心に計画的な体力向上を継続していく。ただし、例年通りの運動会の実施は課題として残る
	外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ALTの効果的な活用 各種テスト、検定への奨励 	<ul style="list-style-type: none"> 英語科部会を実施、ALTによる授業強化 英語検定を実施、スピーキングテスト実施 	<ul style="list-style-type: none"> ALTによる効果的な授業数を確保 英検合格者への表彰、スピーキングテスト平均スコアを都平均より5ポイント以上とする 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 日本語英語検定協会から奨励賞を受けた スピーキングテストについて、自信をもって受検できたが、都平均にわずかに達することができなかった 	B	<ul style="list-style-type: none"> スピーキングの力が求められる時代となった。授業の中でも話す機会を積極的に設けてほしい 英語検定なども、継続してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でもスピーキングの力を身に付けるため、ALTの効率的な展開を図る 来年度も英語検定を奨励していく
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 エンカレッジルームの活用促進 副籍交流、交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育巡回拠点校と連携を図りながら、校内委員会の活性化を図る 多機能な役割を持つ部屋へ取り組む 副籍交流の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 特支コーディネーター中心に巡回指導教員と連携した校内委員会を年30回実施 家庭と連携を取り、個別指導や教育相談など活用していく 感染症防止を図りながら副籍交流3回実施 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会を30回以上達成、共通理解の時間が取れた、支援体制の充実が課題である 副籍交流を年間30回実施、今後も継続していきたい 	B	<ul style="list-style-type: none"> オリパラ講演などで共生社会に向けた取組が見られ、来年度も進めてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 学年別にテーマを合わせたオリパラ講演を来年度も実施し、共同社会の理解を深めていく 仮設校舎でのエンカレッジルームの利用法を再度検討していく
	子供たちの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの健全育成に向けた取組の強化 不登校生徒の共通理解と支援対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> QU調査やいじめ調査を実施し、いじめ等の早期発見、解決を図る SCに相談できる環境をつくる 外部機関との連携を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「心の育成」に関する項目において肯定的な意見を90%とする 1年生全員対象にSCの個別面談を実施 SC年間40回訪問、SSWとも連携を強化 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「思いやりをもつ」で肯定的な意見92%達成 SCによる1年生全員面接実施 SC年間38回訪問実施でき、SSWとの連携も図れた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の増加傾向にあり、さらなる支援の充実を図ってほしい 地域としても見守り、健全育成に向け協力していく 	<ul style="list-style-type: none"> SC、SSW、巡回心理士など関係諸機関と連携をさらに強化する 外部との連携「SOSの出し方」前授業「道徳地区公開講座」など充実させていく
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の改善、充実に向けた学校関係者評価の実施・改善 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの充実 学校評議員会を実施 保護者向けのアンケートを実施 生徒向けのアンケートを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や学校評議員に参観する機会を設ける(学校公開年4回、行事など) 学校評価者評価をHPに掲載、課題を把握し次年度の改善につなげる 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「開かれた教育活動」項目で肯定的な意見9割近い回答が得られた 学校HPの更新数を上げ、一日平均200アクセスを達成 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の今後の動向も鑑みなければいけないが、以前のように生徒のようすを参観できるように期待している 	<ul style="list-style-type: none"> 感染状況の鑑みながら、教育活動を参観する機会を以前のように戻していく 保護者アンケート項目を精選、ICT活用しながら提出率を上げる
	地域との連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小学校と「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 チャレンジザドリームやボランティア活動 町会など地域との連携を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 三校一園の音楽会を実施 改築に伴う校庭やプールの貸借 チャレンジザドリームやボランティア活動での地域への連携 	<ul style="list-style-type: none"> 文化の日に三校一園の音楽会を実施 秋季以降に校庭の貸借を実施 秋季にチャレンジザドリームを実施 校外問わずボランティア活動に参加した生徒を3割以上とする 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方の協力により「ふれあい面接練習」を今年度ははじめて実施できた 地域と連携したボランティア活動に参加した生徒は全校の2割にとどまった 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあい面接」練習に協力でき良かった 地域の運動会やお祭りなどのボランティア活動が再開することになるので、協力してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ではあるが、工夫しながらさらに地域と連携を図り、ボランティア活動などの諸活動を実施していく
特色ある教育の展開	生徒憲章の具現化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自ら策定した「小岩一中生徒憲章(H29)」の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会中心に生徒が主体的できる活動を奨励 感染症防止の工夫を考えながら、新しい生活習慣を見据えた活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートで「生徒会や学級活動での積極的な参加」の項目において肯定的な意見を90%とする 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会中心に、旧校舎の思い出を紹介する展示を実施 生徒アンケート「部活や委員会を含む活動の参加」項目で肯定的な意見8割以上得られた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な活動ができる環境を継続して設けてほしい。地域からも応援、依頼していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校生活のスタンダード」を考えさせる機会を設けるなど、生徒の主体性を引き出していく
	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施、地域や保護者へ周知	<ul style="list-style-type: none"> 「学校職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例(都)」に基づく勤務体制とする 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の出勤の時間を管理し、1年間の定時外在校等時間が360時間を超えないようにする 職員の年休取得を都職員の水準15日に押し上げる 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 定時外在校等時間が360時間を超えない職員は3割にとどまった 平均休暇取得は年10日以上となってきたが、都が目指す水準には至らなかった 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の心身の状態が生徒の支援にも大きく影響すると考える。教員の働き方改革も進めてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 改築に伴う業務負担は否めないが、過多にならないよう調整を図る 休暇制度を利用し、教員のストレスを解消していく